

ひもときシートの効果等に関するアンケート調査結果

調査のねらい

この調査は、事例提供者および認知症ケア援助者等研修¹⁾受講者の「ひもときシート」の活用効果や汎用性を把握するために実施いたしました。

調査時期

平成22年1月15日～2月10日

調査対象

- 1) 事例提供者
- 2) 認知症ケア援助者等研修参加者(認知症介護指導者²⁾等)

調査数

発送数 296件

回収数 110件

回収率 40.2%

調査方法

アンケート調査票による郵送調査

- 1) 認知症ケア援助者等研修とは、認知症ケア高度化推進事業が実施する「個別訪問相談援助事業」の援助者を養成するための研修です。本研修は、ひもときシートを活用しながら、平成21年6月から9月にかけて実施されました。
- 2) 認知症介護指導者は、認知症介護研究・研修センター(仙台、東京、大府)が実施する『認知症介護指導者養成研修』の修了者を指します。認知症介護指導者は、都道府県等が主催する認知症介護実践者研修等の企画・立案、講義・演習・実習の講師等の活動をしています。

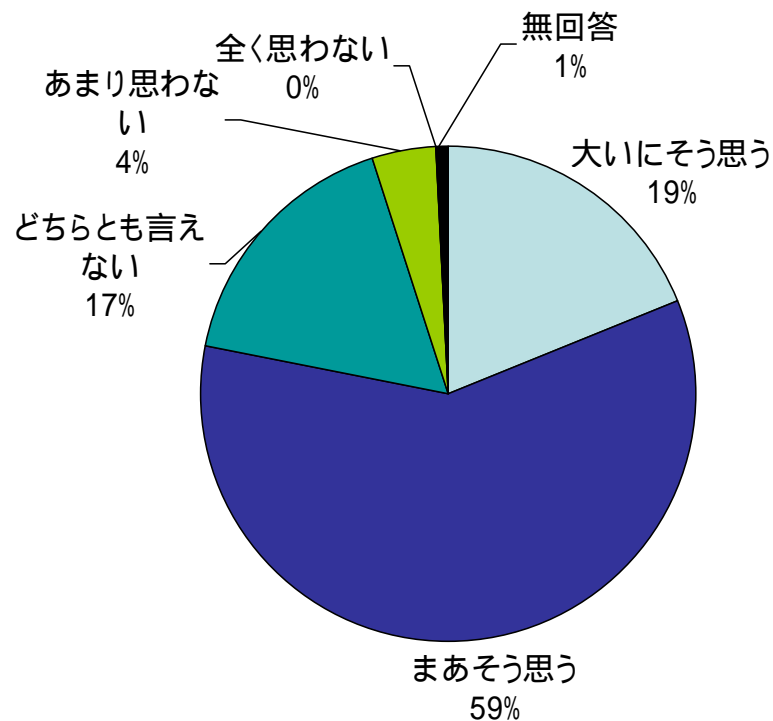
ひもときシート活用後の反応

ひもときシートを使った後の取り組みの変化について確認した設問です。

事例対象者の気持ちの理解に関する変化

事例対象者の気持ちが理解できるようになったかどうかの設問で、全体では「大いに思う(19%)」「まあそう思う(59%)」のあわせて約8割が、対象者を以前よりも理解できるようになったと回答している。

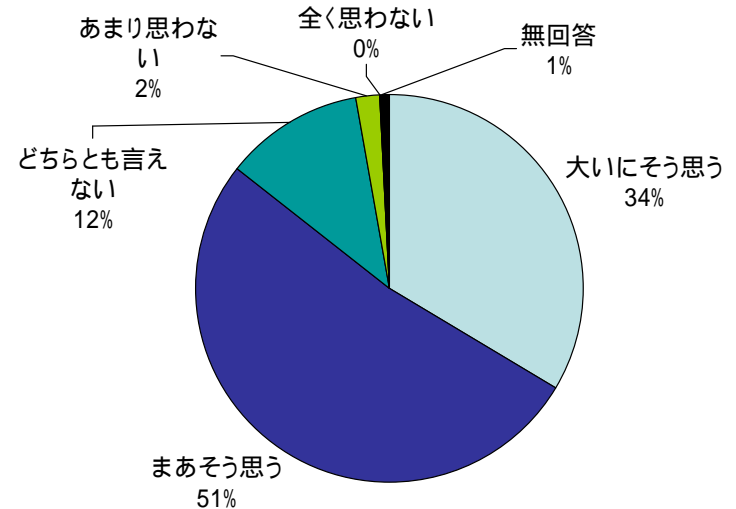
事例対象者の気持ちの理解



事例対象者の多面的な状態把握

事例対象者を多面的にとらえられるようになったかの設問について、全体では「大いにそう思う(34%)」「まあそう思う(51%)」のあわせて85%が、以前よりも対象者を多面的に把握するようになったと回答している。

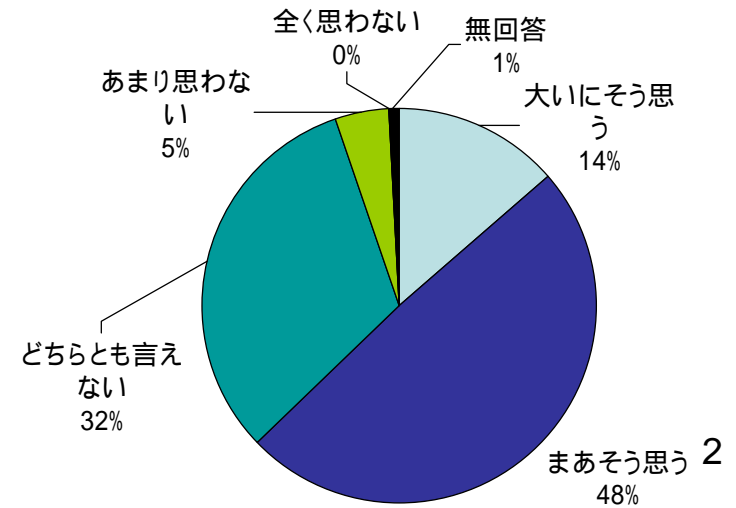
事例対象者の多面的な状況把握



記録やアセスメントの視点の変化

記録やアセスメントの視点の変化があったかの設問について、全体では「大いにそう思う(14%)」「まあそう思う(48%)」のあわせて62%が、以前に比べると変化したと回答している。

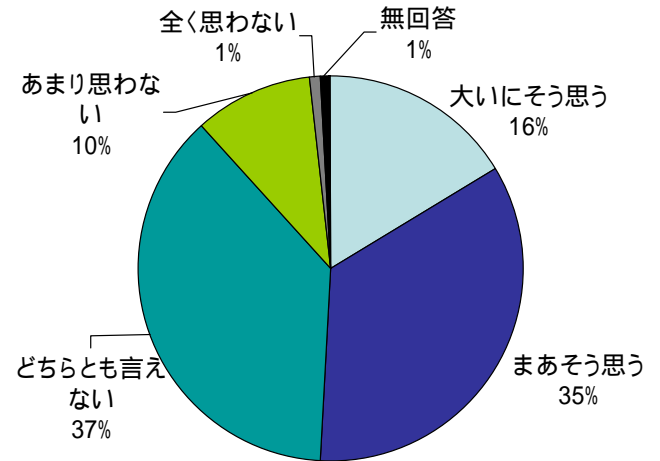
記録・アセスメントの視点の変化



接し方やコミュニケーションの変化

接し方やコミュニケーションがスムーズになった面はあるかの設問について、全体では「大いにそう思う(16%)」「まあそう思う(35%)」のあわせて51%が、以前よりもスムーズになったと回答している。

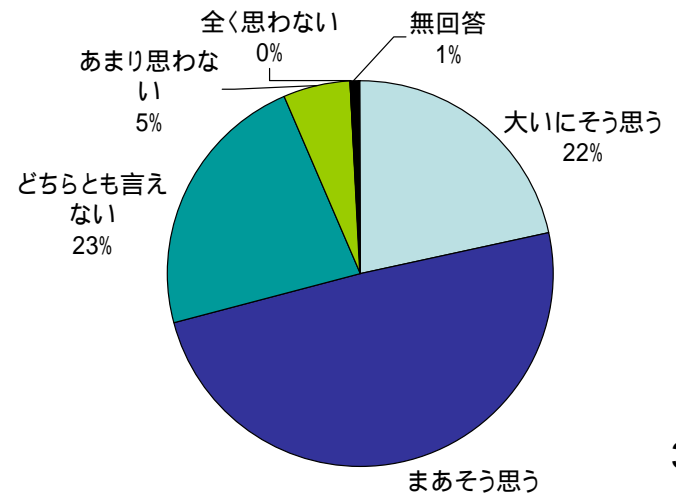
接し方・コミュニケーションの変化



生活環境への配慮

対象者の生活環境を重視するようになったかの設問について、全体では「大いにそう思う(22%)」「まあそう思う(49%)」のあわせて71%が、以前よりも生活環境を重視するようになったと回答している。

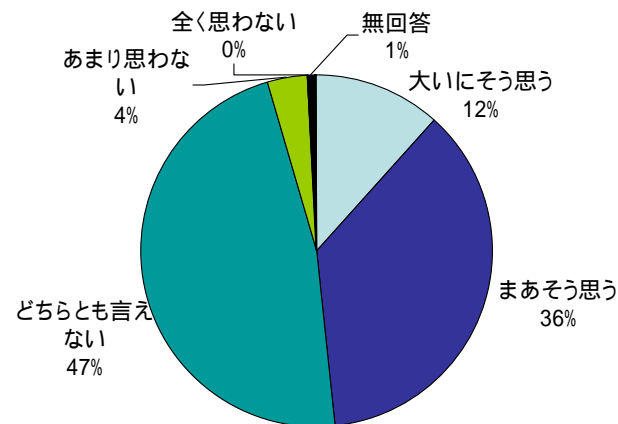
生活環境への配慮



チームケアへの取り組み

チームケアが活発になったかどうかの設問について、全体では「大いにそう思う(12%)」「まあそう思う(36%)」のあわせて48%が、以前よりも活発になったと回答している。

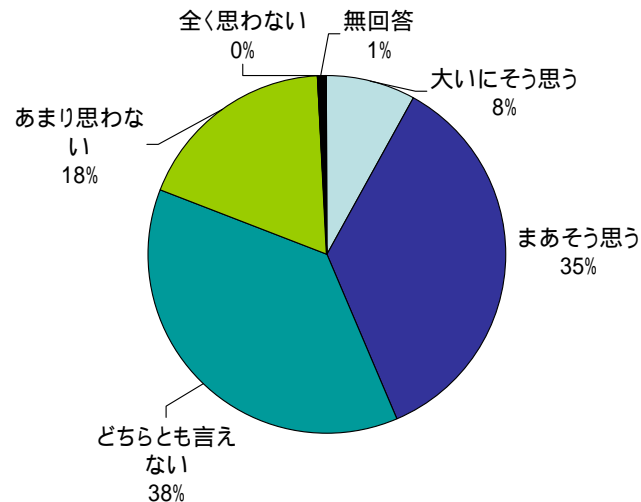
チームケアへの取り組み



家族との会話や相談をする機会

家族との会話や相談をする機会が増えたかどうかの設問について、全体では「大いにそう思う(8%)」「まあそう思う(35%)」のあわせて43%が、以前よりも増えたと回答している。

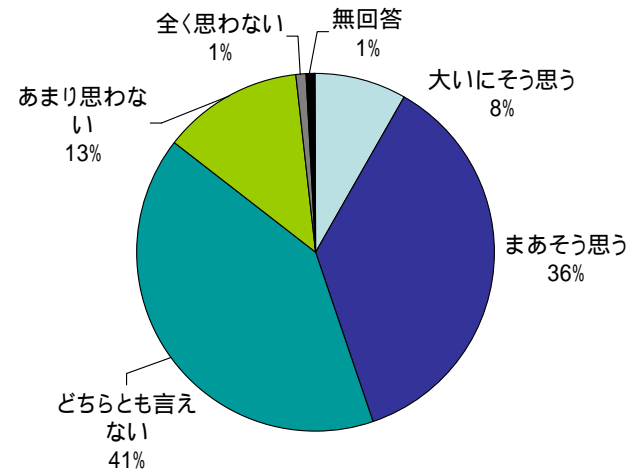
家族との会話や相談をする機会



医療的側面への関心の変化

医療的な視点や医療関係者との関わりを重視するようになったかの設問について、全体では「大いにそう思う(8%)」「まあそう思う(36%)」のあわせて44%が、以前よりも重視するようになったと回答している。

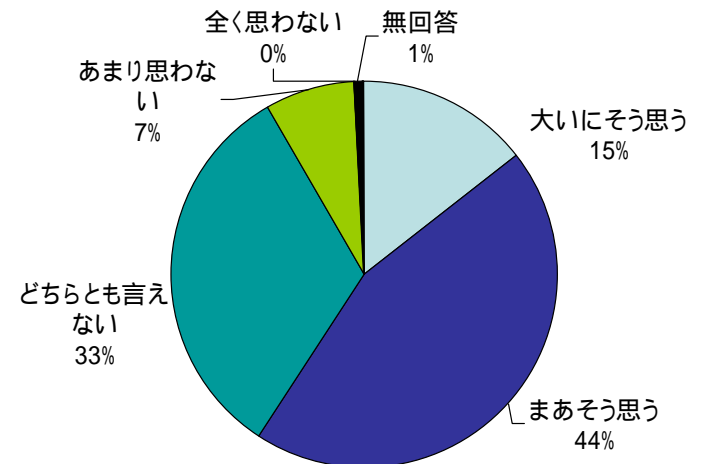
医療的側面への関心



事例対象者と関わる時間や機会の变化

対象者と関わる時間や機会が増えたかどうかの設問について、全体では「大いにそう思う(15%)」「まあそう思う(44%)」のあわせて約6割が、以前よりも増えたと回答している。

事例対象者と関わる時間や機会の变化



具体的な取り組み内容（自由回答記述より抜粋）

- リスク回避より、本人の思いを大切にしたケアプランを考えるようになった。
- 「多角的に捉えること」「考えること」「考え続けること」の重要性を、スタッフに常に伝えるようになった。
- BPSDの原因を考え、その場しのぎのケアから、根本的な原因解決のためのケアに視点が動いた。
- 思考展開シートの内容から、本人と関わる中で、目の前のことだけではなく、広い範囲で考えることが出来るようになった。
- 原因・背景を見つめ直すきっかけになった。
- 利用者の考えや思いに、以前より共感できるようになった。
- 本人の気持ち(言葉の背景にある状態や想い)をより理解しようとするようになった。本人の言葉(なぜ? 快不快など)に敏感になった。
- 事例を考えることで、チームとして関わろうとする雰囲気が出てきたので、一人で悩む(頑張る)職員が減った。
- 一人では事例の提出はできないので、チームでの協力や関わりが重要だと再認識できた。

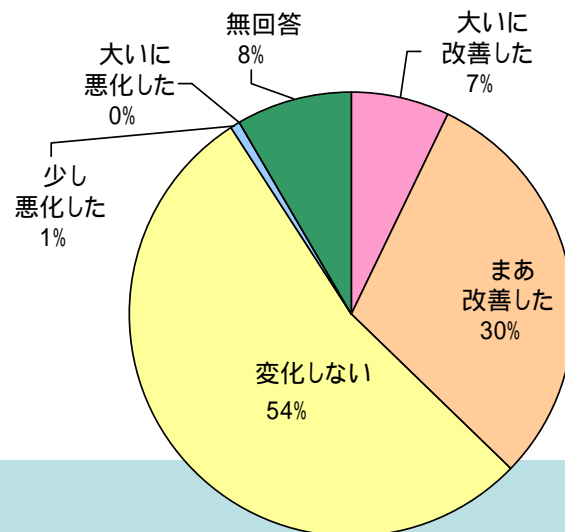
ひもときシートの効果性に関する質問

ひもときシートを使った後の効果に関する意識を確認した設問です。

ひもとき効果：事例の対象者自身の変化

ひもときシート使用後の対象者の変化について聞いた設問で、全体では、「大いに改善した」が7%、「まあ改善した」が30%と、4割弱の事例で改善したと回答している。

対象者自身の変化



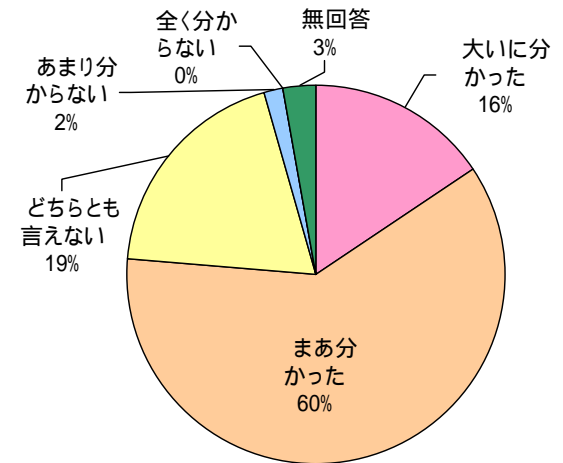
< 対象者の具体的な変化 自由記述より抜粋 >

- 手引き歩行、拒否、興奮、暴力の状態から、自立歩行、精神的安定がみられるようになった。
- 本人の不穏症状出現がかなり少なくなり、独語や帰宅発言も落ち着いたように思う。
- 会話が出来るようになった。
- 以前より心を開いて話をしてくれるようになった。自分の役割に自信が感じられる。
- 夜間大声を出し不眠だった方が、良眠になる日が増している。
- 職員側の対応方法や受け止め方が変化したからだと思われるが、焦燥感や不穏症状が少し落ち着き、ご自身からの発語が多くなった。

ひもとき効果：事例の背景や課題の原因について

ひもときシートを使ったことにより、**事例の背景や課題の原因が理解できたかどうか**の設問では、「大いに分かった」が16%、「まあ分かった」が60%となっている。

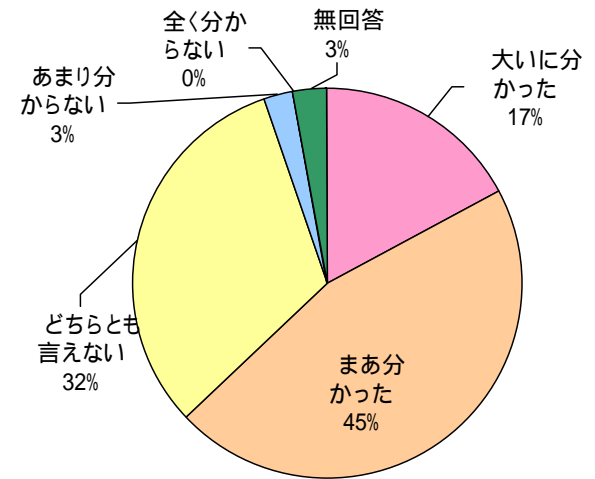
事例の背景や課題の原因



ひもとき効果：課題解決の糸口

ひもときシートを使ったことにより、**課題解決の糸口が見つかったかどうか**の設問では、「大いに分かった」が17%、「まあ分かった」が45%となっている。

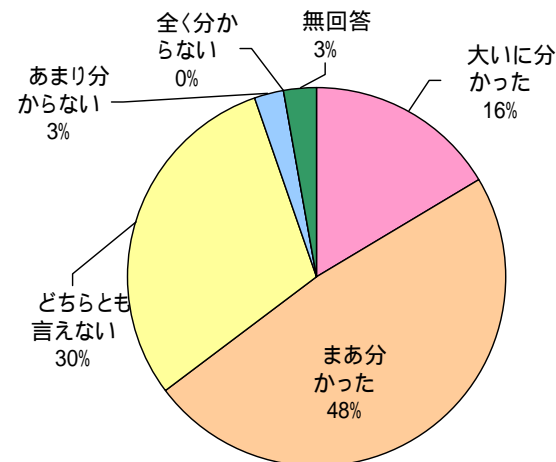
課題解決の糸口



ひもとき効果：具体的な支援方法の見通し

ひもときシートを使ったことにより、**具体的な支援の方法が見つかったかどうか**の設問では、「大いに分かった」が16%、「まあ分かった」が48%となっている。

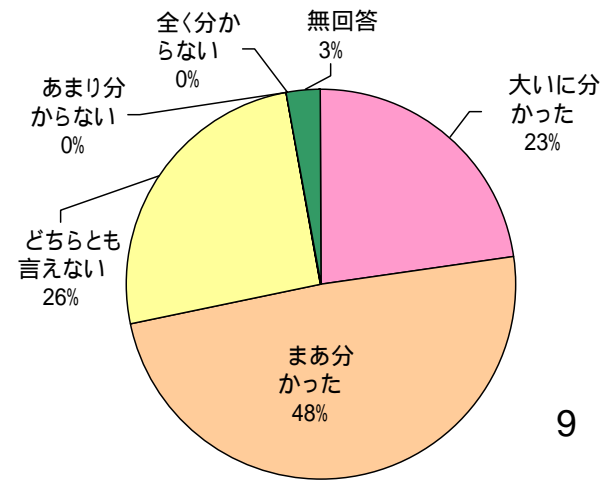
具体的な支援方法



ひもとき効果：自分自身のすべき事(行動)の理解

ひもときシートを使ったことにより、**自分自身のすべき事が見つかったかどうか**の設問では、「大いに分かった」が23%、「まあ分かった」が48%となっている。

自分自身のすべき事(行動)



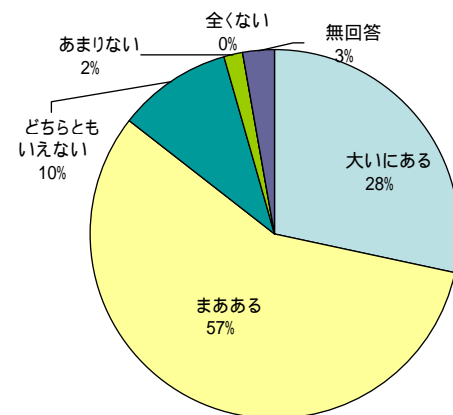
今後の活用意向に関する質問

実際に「ひもときシート」を使った回答者の評価を確認した設問です。

困難をひもとける可能性・活用価値・今後の活用に関する意向

- **ひもときシートが困難事例をひもとくのに役立つと思うかの設問**では、「大いにある」が28%、「まあある」が57%で全体の85%が肯定的な意見となっている。
- **今後、同僚や多職種の間でこのシートを紹介したり、一緒に活用したりしてみたいかとの設問**では、「はい」が74%、「どちらともいえない」が19%で、継続して使ってみたいとの回答が7割以上を占めている。
- **ひもときシートが今後の認知症ケアのツールとして活用価値があると思うかとの設問**では、「大いに思う」が33%、「まあ思う」が53%で、活用価値を認めている回答が約9割となっている。

困難をひもとける可能性



今後の活用に関する意向

